<研修名>	特別支援学級等新規担当教員研修（ABC 日程／第6日）
<研修日>	A 日程：令和6年1月12日（金） 14:30～16:45 B 日程：令和6年1月15日（月） 14:30～16:45 C 日程：令和6年1月16日（火） 14:30～16:45
<人数>	A 日程： 33名、B 日程：41名、C 日程：45名
<ねらい・目的>	自身の授業実践を振り返るとともに、実践交流を通して効果的な指導や支援のあり方について理解を深め、明日からの実践につなげる。
<研修内容・講義題>	特別支援教育におけるキャリア教育の視点／学習指導等の振り返りⅡ
<講師・指導者>	【A 日程】五日市中学校 教頭 田中 晃子、安東小学校 教諭 藤野 直美、亀山南小学校 教諭 井手本 修司、 古市小学校 教諭 大倉 隆弘 国泰寺中学校 教諭 水津 留美子、大塚中学校 教諭 大野 眞佐代 及び教育センター職員 【B 日程】広島みらい創生高等学校 教諭 西川美代、亀山小学校 教諭 國光宏美、矢野西小学校 教諭 池田幸枝、戸坂城山小学校 教諭 長藤祐揮、 八幡小学校 教諭 森脇晴美、幟町中学校 教諭 木村珠己、井口中学校 教諭 小早川典枝 及び教育センター職員 【C 日程】広島みらい創生高等学校 教諭 西川美代、川内小学校 教諭 梶原美園、原南小学校 教諭 蔭久祥、青崎小学校 教諭 城幸美、 伴南小学校 教諭 石原寿奈、伴小学校 教諭 物部美穂子、城南中学校 教諭 加藤美穂、古田中学校 教諭 鈴木孝信 及び教育センター職員
<受講者の様子・感想> 目の前の子どもの実態を捉えつつ、将来を想像し、小学校段階でつけておくべき力について考えることのできる時間となった。特に自分で支援を要請する力について日々の学校生活や家庭と連携しながら取り組んでいきたい。	

<セミナー名>	令和５年度 ひろしま未来教師セミナー（セミナーⅡ）
<研修日>	令和６年1月14日（日） 9:30～11:30
<人数>	38名
<指導者>	健康教育課 生徒指導課 職員

<参加者の様子・感想>

教員になれば、すぐに子どもを守らなければならない立場になることを改めて自覚した。学習支援ボランティアで学校に行く際には、先生方がどのような姿勢で生徒と関わっているのかを見て学びたい。

<研修名>	経験３年次園長・校長研修（第4日）
<研修日>	令和６年1月19日（金）
<人数>	29名（小学校 19 名 中学校 9名 特別支援学校 1名）
<ねらい・目的> 学校経営に係る専門的事項について理解を深め、校務運営上の課題解決に向けた力量を高めるとともに、学校経営計画の充実に向けた見通しをもつ。	
<講師・指導者>	教育センター職員

<受講者の様子・感想>

自分ではマネジメントをしているつもりであったが、それは、マネジメントの反対である前例踏襲や現状維持的な考えであったことに気付き、次年度の取組に対する考えを改めるきっかけとなった。

<研修名>	採用前研修【第１日】
<研修日>	令和６年１月20日（土）
<人数>	98名（小学校 53 名・中学校 34 名・高等学校５名・特別支援学校６名）
<狙い・目的>	教員としての基礎となる学級づくり、授業づくり、コミュニケーション能力、チーム対応の重要性について理解し、実践に向けての意欲をもつ。
<講師・指導者>	学校教育部指導第二課職員、教育センター職員

<受講者の様子・感想>

４月からどのような仕事をするのか具体的にイメージすることができた。４月にむけて準備すべきことも明確になった。

目的を持ったうえで活動を行うこと、子どものできているところに目を向けることの大切さを学ぶことができた。また、初めて出会う人たちと実際に活動しながら関わることができよかった。

（小学校）

（中学校）

（高等学校）

（特別支援学校）

<セミナー名>	令和５年度 ひろしま未来教師セミナー（セミナーⅡ）
<研修日>	令和６年1月21日（日） 9:30～11:30
<人数>	31 名
<指導者>	東野小学校 主幹教諭 永松 陽子 東原中学校 教 諭 谷川　雄亮　生徒指導課 職員

<参加者の様子・感想>いじめや不登校への対応は、1 人で抱え込まず、組織として対応していくことが大事であることが分かった。ふれあい教室に行くことになった際には、学生という立場を生かしながら、子どもたちの困り感に着目して、子どもたちとの会話や遊びを楽しみたい。

<研修名>	中・高等学校英語指導助手（ALT）活用研修
<研修日>	令和６年 １月23日（火）
<人数>	72 名
<ねらい・目的>	言語活動を取り入れた授業づくりについて理解し、英語指導助手（ALT）を効果的に活用した実践的指導力を高める。
<講師・指導者>	指導第二課職員

<受講者の様子・感想>

言語活動を効果的なものにするためには、生徒の目指す姿や指導の方針、また授業中に見取った生徒の様子をALTと共有し、相談しながら中間指導を行なうことが大切であると理解した。

<研修名>	教育活動推進リーダー育成研修第7日
<研修日>	令和６年 １月23日（火）
<人数>	15名　　受講者の学校から参加管理職15名

<ねらい・目的>

「令和の日本型学校教育」について理解し、ミドルリーダーとして自園・校の「令和の日本型学校教育」の構築に向けて組織的に教育活動を推進するための実践力を高める。

<受講者の様子・感想>

研修を通して自分の仕事の見方を変えることができた。実践を続け、学ぶことをやめないようにしたい。職場が変わっても、今回の研修を活かして、その学校の課題に対して積極的に取り組んでいきたい。

<研修名>	新任生徒指導主事研修、生徒指導主事研修
<研修日>	令和６年１月25日（木）、１月26日（金）
<人数>	216名
<ねらい・目的>	現状にとどまることなく、よりよい「チーム学校」づくりや問題解決に向けて対応することができる。
<講師・指導者>	生徒指導課職員

<受講者の様子・感想>

いじめに限らず、生徒指導に関わる諸問題に取り組む際には、個人だけで悩んだり取り組んだりするのではなく、組織で対応することが大切である。そのために報告する窓口を一元化することが必要であると考えた。組織的に生徒指導に取り組むことにつながるためのシステム作りに取り組んでいきたい。

<研修名>	学校保健研修（第３日）
<研修日>	令和６年１月 26 日（金）
<人数>	227 名（幼稚園 15 名小学校 130 名 中学校 63 名 中等・高等学校 15 名 特別支援学校 ３名）

<ねらい・目的>

子どもの心身の健康問題に対する専門的知識・技能を身に付け適切な対応ができるようにするとともに、実践的指導力を高め、学校保健・学校安全の充実・発展を図る。

<講師・指導者>	県立広島病院小児腎臓科 主任部長 大田 敏之　　もり小児科 副院長 木下 義久

<受講者の様子・感想>

改めて学校における心疾患・腎疾患の管理の重要性を認識することができた。今後の学校管理で活かしたい。

<研修名・事業名>	新任情報教育担当者研修【第5日】
<研修日>	令和６年１月29日（月）
<人数>	78名
<ねらい・目的>	情報教育担当者としての職務内容を理解し、教育の情報化の推進に向けた見通しをもつ。
<講師・指導者>	教育センター職員

<受講者の様子・感想>

周囲の先生方を巻き込むために日頃から良い関係を保つこと、その先生のニーズにあったサポートをしていくことが大切だと思った。各学年で情報担当を決めたり、研究授業と繋げたりするなど、学校全体で情報化を進められるよう考えていきたい。

<研修名>	新任園長・校長研修
<研修日>	令和６年 １月29日（月）
<人数>	36名
<ねらい・目的>	園・学校の最高責任者としての使命や学校の課題解決に係る専門的事項について理解し、学校経営の実践力を身に付ける。
<講師・指導者>	教育センター職員

<受講者の様子・感想>

来年度へ向けてのグループ交流では、各校それぞれ課題がある中で策を練っておられる校長の姿に感銘を受けた。先生方へ希望や展望を与えることができる校長でありたいと改めて感じた。

<研修名>	主幹教諭等研修
<研修日>	令和６年1月31日（水）
<人数>	18名
<ねらい・目的>	主幹教諭及び学校運営の中核を担う者の役割を理解するとともに、実践力を高める。
<講師・指導者>	教育センター職員

<受講者の様子・感想>

組織の一員としての責任、自校の課題を見つけ解決していくための視点、チーム学校の大切さについて学ぶことができた。多角的な視点を持ち、「自分が管理職だったらどうするか」を常に意識しながら職務を遂行していきたい。

<研修名>	経験2年次園長・校長研修【第4日】
<研修日>	令和６年 １月31日（水）
<人数>	38名
<ねらい・目的>	学校経営に係る評価について理解を深め、学校評価を基にした実践の見通しをもち、学校改善に必要なマネジメント力を身に付ける。
<講師・指導者>	福岡大学人文学部　教授　髙妻 紳二郎 ／ 教育センター職員

<受講者の様子・感想>

良さを伸ばすことが、学校全体の向上につながることは分かっているつもりだが、本校の良さを伸ばすための具体的な手立てがなかなか思い浮かばない。校長一人で考えるのではなく、教職員全体で検討していくこと、意識統一していくこと、実践していくためのシステム作りをしていくことを考えていきたい。